

1 開催日時

平成26年2月7日（金）午後2時から

2 開催場所

中央公民館 301学習室

3 出席者

委員：鈴木委員長 土田委員 武石委員 岩田委員 真如教育長  
事務局：阿部学校教育部長 石井学校教育部参事 小俣社会教育部長  
小坂橋統括指導主事 福鳶庶務係長

4 協議項目

- (1) 第二小学校における学童クラブ待機児童の受け入れについて
- (2) 平成25年度卒業式における教育委員会告辞（案）について
- (3) いじめ防止の方針について

5 会議の要旨

(1) 第二小学校における学童クラブ待機児童の受け入れについて

①主な説明

- ・市長部局から、教育委員会に対し第二小学校における学童クラブ待機児童の受け入れについてのお願いがあった。その背景としては、学童保育所第二クラブの定員が55人に対し現在の希望者数は100人を超え50人程度が待機児童となる見込みとなったことに対し、平成26年度から第二小学校一教室を使用した待機児童受け入れ事業（ランドセル来館事業）を実施したいとのことである。
- ・第二小学校一教室の使用について教育委員会としてどのように受け入れるかについて考える。
- ・現在行われているランドセル来館事業とは、南街市民センター内の学童クラブに入れなかった子どもたちがランドセルを持ったまま同市民センター内児童館で放課後を過ごす事業のことである。

②主な内容

- ・今後は、市内全域で学童保育事業（児童館内）だけで対応できずにランドセル来館が増えるのか。今年だけの緊急事態なのか知りたい。
- ・現在、ランドセル来館事業を実施している学校はない。以前第八小学校で夏季待機児対策事業（期間限定）として実施したことはある。
- ・子どもたちのことなので受け入れることは当然と考えるが、費用面のことばかりが前面に出て全体的な先行きを見なくて良いのか疑問がある。
- ・50人もの子どもたちを一教室で対応することは、安全面上からも無理があるのであれば、放課後どこにも居場所がない子どもが出てしまうのではないか。制度としては学童保育、ランドセル来館、放課後子ども教室など

が整備されているにも拘らず、これらを活用できない子どもが出ることに問題があるのではないか。

- ・第二小学校一教室での待機児童受け入れについては、教育委員会として協力することとし、第二小学校を全面的にフォローしていくこととする。

## (2) 平成25年度卒業式における教育委員会告辞（案）について

### ①主な説明

- ・東大和市立小・中学校の卒業式の告辞（案）を提示した。

### ②主な内容

- ・小学校の告辞文、「目の前にある目標を乗り越えて」は「目標」であれば、「達成または実現」と結び、「乗り越える」のであれば「課題」の方が適するのではないか。
- ・「真海さん」と「彼女」の使い方に工夫がある。
- ・中学校の告辞文、「三年間。」との表現については、何か文言を追加し言い切る形でない表現に修正する。
- ・「感謝の気持ちをもち」の文言を入れたことは、子どもたちの情操教育にとっても大切なことであると思うので、小学校の方にも取り入れてほしい。

## (3) いじめ防止の方針について

### ①主な説明

- ・経緯としては、国がいじめ防止対策推進法を施行、それに基づき都が6月議会に関連する案件を提出する予定である。しかし、学校は、国の「いじめの防止等のための基本方針」又は基本方針を参酌し、その学校の実情に応じ、「学校いじめ防止基本方針」を定めるとの努力義務を課せられている。そのため、4月から活用できるように各学校が方針を作成するに当たり教育委員会としての方針を作成するものである。
- ・東大和市教育委員会としてはいじめ防止の方針については、いじめの定義や禁止などは法のまま引用し、いじめの問題への基本的な考え方や学校における取組、教育委員会における取組等については、市独自の考え方を取り入れ特色を持たせる。

### ②主な内容

- ・いじめが起きる学級は決まっていたりするものである。子どもは先生に褒められたいと思っている。教師は子どもの自尊感情を育ててほしい。
- ・教師の人権意識がとても重要であり、子どもを絶対にえこひいきしないこと、これこそが人権意識の具現である。
- ・学級に子どもの居場所があれば、いじめは起きないと思う。
- ・「学校いじめ防止基本方針」を作成するに当たり、やるべきことをきちんと盛り込み、きめ細かい対応をしてほしい。